

段も何等な事の出来ないのが現在の聯盟である。國民の負擔は重くであらうが、戦争に比較すれば僅かな事である、戦争をせざる爲に辛抱して國家を安全に守らねばならぬ。

○皇道維新は誰がやるか 藤本部長 深町 鑑 陽

出口先生の内命を受け、頭山先生、貫志^中、矢野其の他の方々の力添を以て漸くこの昭和神靈會を作り上げた、出来上らうとするところで大体の幹部の反対もあつたが兎も角出来上つたので自分は身を引こうと思つたけれども出口統管より陛下を神として助けと言ふ事で一生懸命活動を續けてゐるのである吾々は宣言綱領を實行しようとするのであつて、ダイナマイトやピストルではなく合法的に實行するのだ、政黨の言ふ事は大きいが實行出来ないから三文の價値もない、各地で贈收賄が頻發し帝人事件等が起つてゐるが、こつちやう社會、政黨

の墮落の爲に昭和神靈會が生れたのだ、大西郷を始め多くの志士を出した九州人によつてこそこの昭和の大維新を斷行せねばならぬ。

○非常時日本は何處へ行く

下位 春吉

茲數年來非常時、非常時と叫んで居るが平常は何をしてゐるか、國民は非常時を口にしながら何にも非常時らしい事をやつてゐない、政府は數年來非常時を叫んでゐるが國民は非常時が何物なるかを知る事が出来ない、政友では滿洲の大砲の音だ、民政ではアメリカだと言つてゐた、ところが一昨年九月萬里の長城は越へないと約束が出来、又アメリカの目つきも好くなつて來たと言ふので政黨では非常時解消を唱へた。この解消に對して軍人は今から非常時だと言ひ出し政府も困つたので一九三五、六年を擡げて非常時の板着とし